



伊曾乃

題字は社宝伝崇徳天皇ご宸筆
勅額の文字を模したものです。



盛大に例大祭斎行

宮司 堀川 修のぶ 巧よし

本年の当社例大祭も好天のもと肅々と盛大に斎行されました。御神輿は氏子全屋台のお見送りを受けて、夕日の中キラキラと煌めき、清き加茂川に川入りの後、無事本社に還御なされました。これ一重に明比大祭委員長を始め神戸年番及び鬼頭の方々、氏子の皆様方、若人たち昇夫おひとりおひとりの氏神さまに対する崇敬の念と、ご協力のおかげだと心より感謝申し上げます。

当社神幸祭は、江戸時代より幾多の変遷を経ながらも、御神輿の「日の出とともに宮出しをし、日の入りとともに宮入り」をなさるを、祭りの「根っこ」として、何百年という年月の間、私たちの先祖様が大切に築き上げてきた伊曾乃神社例大祭の原点であります。

来年以降もぜひ本年のような伝統と文化の薫る祭祀にしたい。ただ、祭礼時のゴミ問題や未成年の飲酒などまだまだ残る諸問題の解決もお考えいただきまして、氏子として誇りを持ち、皆様方ご自身が日本中に「西条の我（おら）が祭」として胸を張って自慢し、誇るべき素晴らしきお伊曾乃さんの例大祭にしたいと願います。

また現在当社は平成二十九年の完成を目前に御創祀一八八〇年記念事業奉賛会に白木会長を中心に鋭意取り組んでいただいております。氏子の皆様方には大変なご負担をお掛け致しておりますが、どうか氏神さまの為にご理解ご協力をお願い申し上げます。

そして最近自然環境も昔とは異なっております。大きな台風が来襲する危険も年々増えてまいりました。そのような事を憂い、鎮守の森を護り景観を保つため、境内樹木の剪定整備などに大勢の氏子有志の方々がボランティアで取り組んでいただいております。ほんとうに有難く厚く御礼申し上げます。

自然環境や社会情勢、人の心情も昔とは大きく異なっております。然し乍らそういう世の中にあっても、昔と変わらず護るべきものは覚悟をもって護るべく氏子の皆様とともに日々心がけていきたいと思っております。

例大祭御札

年番(神戸) 大祭委員長 明比 幹夫

金木犀の花の匂いも甘く香る十月十六日、今年も伊曾乃神社の例大祭が大神様の御加護と、氏子の皆様方の大変なご協力と御支援を賜り、賑わいの中に無事斎行できましたことを先ず以て深く感謝し厚く御礼申し上げます。

扱、今年の例祭期間中は近年稀に見る好天気となり、十五日早朝の例大祭にはじまり、その後の出御祭で大神様を大神輿にお遷し申し上げ午前六時にお宮出し、順調に市内二十ヶ所で神楽所祭を執り行い、夕刻には御旅所へ着御致しました。

最終日となる翌十六日は、早朝より御旅所にて旧西條藩主 松平家御代理、地元氏子総代等の御参列の中、厳肅に御旅所祭を斎行し、夜明けの午前六時過ぎより屋台の統一運行とともに御神輿も御出立し、御殿前等市内十六カ所順調に神楽所祭を執り行い、川入り予定時間の四十五分前にあたる午後四時三十分には御旅所へ着御されました。程なく、屋台・みこしも加茂川土手に勢揃いし、定刻通り川入りをされる御神輿をお見送りすることが出来ました。川面には夕日に照らされた御神輿の金銀の飾りが映え、大変に美しく、神戸の屋台と練り合う光景は絶景で大観衆を魅了しておりました。このことは、昨年鬼頭により屋台の統一



運行の行程時間を変更し、屋台総代や昇夫の皆さんが一致協力した結果で、近年に珍しく行う事が出来ました。これからは、この様な時間帯でお宮入りが出来れば最高だと思えます。想いみます

祭は天候に恵まれ、御神輿の行列は基より、屋台・みこしの運行も近年に無く厳肅かつ盛大なものとなり、堀川宮司にも一花添える事が出来、神戸年番一同、伊曾乃大神様の御神徳と感謝致しております。私事年、大祭奉仕に際しては役員の方々や年番の皆様、そして御神幸行列でお会いしました氏子の方々から優しい励ましのお言葉や、御協力を賜り無事に務めることが出来、大変有り難く深く感謝致しております。終わりに成りましたが、この例大祭にお世話になりました警察署・鬼頭・昇夫・中学生・氏子関係者の皆様に、衷心より御礼申し上げ御挨拶と致します。

ありがとうございました

年番例大祭準備

今年の年番である神戸地区の皆様により、十月十四日に御旅所や参道周辺の安全対策をはじめとする例大祭準備作業を、十七日には復旧作業を賜りました。



例大祭直後の清掃奉仕

十月十五日、御神輿の御立ち直後から喜多川中・下町南・上神拜・藪乃内・西新町町の昇夫有志の皆様により、境内清掃奉仕を賜りました。例年、多量のごみが発生しております。各屋台・みこしで、これまで以上の減量対策をお願いします。



二、愛媛県の祭りに出ている主なダンジリ

いよ西条だんじり祭り編著者 村上 俊行

中予では松山市北条に屋根なしのダンジリが出る。旧市内は御神輿のみ。その他の地域ではダンジリは出ていない様子である。北条のダンジリは西条だんじりの系統と考える。お囃子は鉦と太鼓である。昭和の後期に西条だんじりを参考にして、一台屋根付が出来た。



北条のダンジリ

南予では多くの地区に四つ太鼓（太鼓台）と牛鬼が出る。四つ太鼓は八幡浜市保内のが東予の太

鼓台によく似ている。



吉田町の四つ太鼓



宇和島の牛鬼

その他のダンジリとしては、曳き船が大洲市長浜、八幡浜市保内、伊方町三崎、宇和島市吉田、

西予市宇和町等、曳きダンジリは御車が八幡浜市保内、伊方町三崎、山車が伊方町伊方、西予市宇和町、大洲市明浜、愛南町御荘、宇和島市吉田等に出る。



長浜の曳き船



保内町の御車

愛南町一本松のダンジリは太鼓台、旧宇和島市は以前出ていた曳きダンジリが出なくなっており。愛媛のダンジリが出る祭礼絵巻は西条と宇和島と吉田の三つがある。

御創祀一八八〇年記念事業奉賛会 ご寄付のお願い

待合殿・回廊・社務所増改築完成予想図

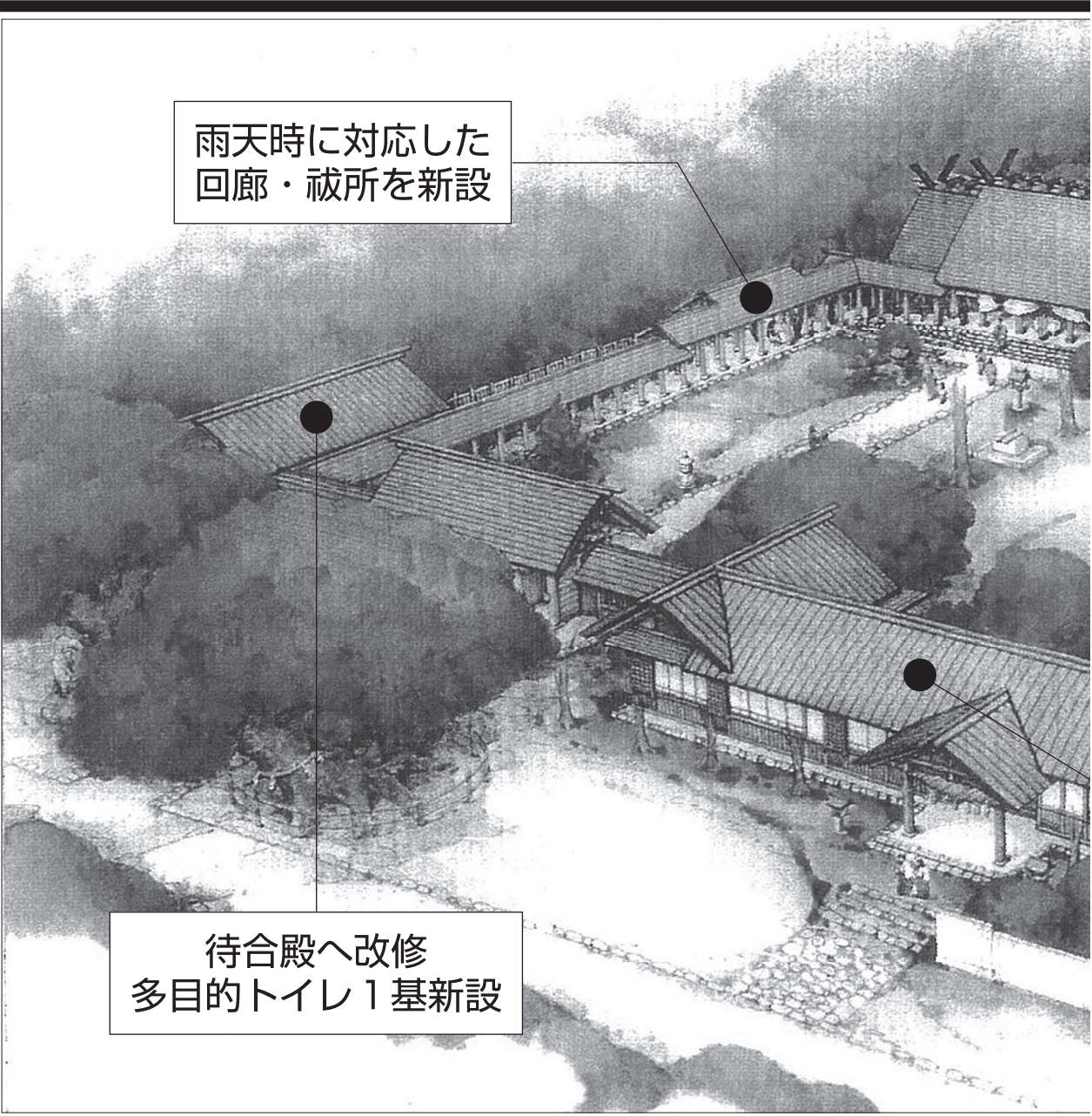


事業概要

- 一、待合殿・回廊建設
授与所を待合殿に改修し、多目的ト
イレを一基増設します。
また、回廊を新設し、祓所を併設致
します。
- 二、社務所増改築
社務所内部の改修と、部分的な増改
築を致します。
- 三、その他関連工事

概算費用

- 一、外部（土木・外構）関係工事 一〇〇〇万円
- 二、待合殿・回廊建設工事 三〇〇〇万円
- 三、社務所増改築工事 六〇〇〇万円
- 四、建設工事関係諸経費 一〇〇〇万円
- 五、関連費用 四〇〇〇万円
- 合計 一億五〇〇〇万円



氏子総代様・お世話人様を中心に、奉賛活動をお願い致しております。
この奉賛事業にご理解とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

伊曾乃神社御創祀一八八〇年記念事業奉賛会
事務局（伊曾乃会館内）

（土・日・祝日を除く九時～十五時）

電話 〇八九七（四七）七六九〇

社務所

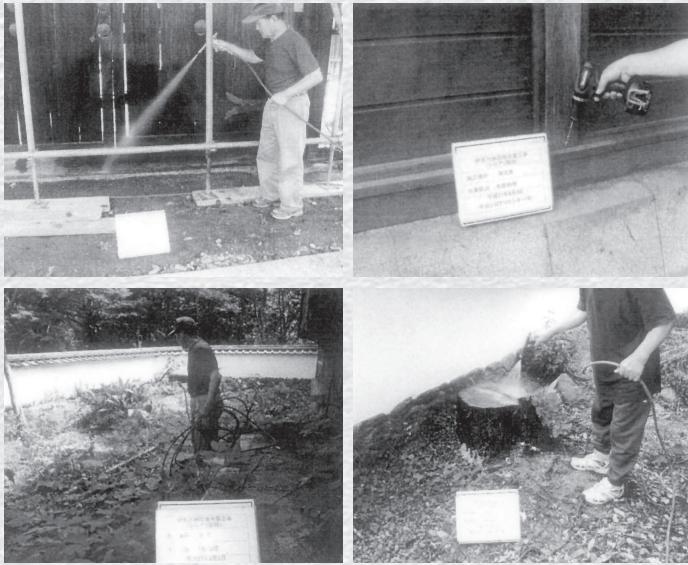
電話 〇八九七（五五）二一四二

- | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|----|-------|
| 宮司 | 堀川 修巧 | 理事 | 明比 昭治 | 副会長（建設担当） | 戸田孝一郎 | 副会長（財務担当） | 三浦 仁 | 副会長（総務担当） | 明比 幹夫 | 会長 | 白木 秀典 |
| | | 尾野 和夫 | 伊藤 勇 | 副会長（建設担当） | 矢野 幸雄 | 副会長（財務担当） | 伊藤 道雄 | 副会長（総務担当） | 安藤 勝俊 | | |
| | | 木藤 清 | 伊藤 道雄 | 副会長（建設担当） | 伊藤 道雄 | 副会長（財務担当） | 黒川 清美 | 副会長（総務担当） | 伊藤 道雄 | | |
| | | 松本 一夫 | 黒川 清美 | 副会長（建設担当） | 黒川 清美 | 副会長（財務担当） | 大澤 勝幸 | 副会長（総務担当） | 伊藤 道雄 | | |
| | | 安永 省一 | 大澤 勝幸 | 副会長（建設担当） | 大澤 勝幸 | 副会長（財務担当） | 高瀬 康雄 | 副会長（総務担当） | 伊藤 道雄 | | |
| | | 西山 多一 | 高瀬 康雄 | 副会長（建設担当） | 高瀬 康雄 | 副会長（財務担当） | 渡邊 博毅 | 副会長（総務担当） | 伊藤 道雄 | | |
| | | 渡邊 博毅 | 日野 信二 | 副会長（建設担当） | 日野 信二 | 副会長（財務担当） | 加藤 武司 | 副会長（総務担当） | 伊藤 道雄 | | |
| | | 加藤 武司 | 矢野 胤勝 | 副会長（建設担当） | 矢野 胤勝 | 副会長（財務担当） | 近藤 清政 | 副会長（総務担当） | 伊藤 道雄 | | |
| | | 近藤 清政 | 一色 鉄馬 | 副会長（建設担当） | 一色 鉄馬 | 副会長（財務担当） | | 副会長（総務担当） | 伊藤 道雄 | | |

奉賛会現状報告

シロアリ防除作業

シロアリによる腐食被害がある迎賓館・齋館・旧神門・御文庫の防除作業を行いました。さらに、防除業者の御好意により、建物周辺の境内林のシロアリ生息調査並びに防除作業も行って戴きました。



寄附者芳名板設置



寄附石建立までの間、貴重なご寄付を賜りました皆様の御芳名を表記させて頂き戴きます芳名板を、駐車場南側に設置しました。今後は、奉賛お申込み順に随時、掲載作業を進めてまいります。

駐車場整地

今後の奉賛事業に先駆け、駐車場の伐採木の脱根整地を行いました。十五日の例大祭での屋台の据え付け、通年の参拝者の駐車スペース等を大幅に拡大することが出来、景観も美しくなりました。



境内整備の状況

四月からの奉仕作業は迎賓館・御文庫
周辺から、会館・駐車場周辺に至るまで広
範囲に実施戴きました。



立木伐採をはじめ、撤去作業に御奉仕賜
りました皆様の御芳名を記し、厚く御礼申
し上げます。

- 加藤 武司 様
- 伊藤 勇 様
- 尾野 和夫 様
- 明比 幹夫 様
- 環境美化ボランティア団体かじか 様
- 伊曾乃神社氏子神拝会 様
- 喜多川中・本町一丁目・北之町中組・
日明・中之段・松之巷 各有志の皆様

整備前



整備後



駐車場周辺は大々的に整備することがで
き、参拝者はもとより例大祭での屋台・み
こしの据え付けに余裕をもてるようになり
ました。

敬神婦人会通信

伊曾乃神社敬神婦人会が設立されて一年がたちました。

設立当初は、会長はじめ役員一同、神社の為にどのような活動を行えばいいのかが、会員との親睦を深めるために、どのようにすればいいのかと・・・。試行錯誤の中、活動してまいりました。

設立一年目の六月に、伊曾乃神社敬神婦人会総会を開催し、会員の皆様からご意見などをいただき、また顧問の明比徳子さまより、朔日祭・月次祭に参列したときの気持ちや、神社への思いなどを、語っていただきました。



少しでも敬神婦人会の事を知っていただくようと、毎年七月に行われている、「愛媛県敬神婦人連合会総会」に役員・会員が参加いたしました。

松山の伊豫豆比古命神社での正式参拝、総会に参加し、懇親会の余興では、伊曾乃神社敬神婦人会として余興を担当いたしました。ハーモニカ演奏を行い、とても好評でした。

そして、本年は戦後七十年という節目の年にあたるので、総会終了後に、愛媛県護国神社への正式参拝を行いました。

正式参拝ののち、神職さんより、戦争とは？遺族として、日本人として、どのように戦後を考えていくのか？自分たちがこれから、どのような



に生きていけばいいのか？色々勉強になるお話しをいただく事ができました。

九月には伊曾乃神社駐車場で開催された「伊勢音頭フェスティバル」において、敬神婦人会として、会員特製のおはぎや桜餅の販売、甘酒やお茶の販売、会員自ら考案をした「ちよこつと焼」を販売し、大変好評をいただきました。

伊勢音頭フェスティバルが終わる前に、すべて完売をしてしまい、また販売をしてほしいという声もいただくほどの、好評ぶりでした。



また、今後は、会員同士の親睦をより一層深めるべく、バックの作成や、国旗小旗作成、年末のすすはら

い神事(大掃除)などを行う予定です。すすはらい神事は、大神様に気持ちよくお正月をお迎えいただく為に、御社殿の掃除を行う事です。昨年参加された会員からは、普段入る事のできない神域の掃除を行う事ができ、神様をとて身近に感じ、おかげをいただいたと、とても喜ばれておりました。

伊曾乃神社敬神婦人会にご入会されたい方も、ぜひご入会いただき、会員同士で親睦を深めつつ、伊曾乃神社の大神様の御加護をお受けになりますか？

入会希望者は、お気軽に社務所または、お近くの役員までお知らせ下さい。



祭典のご案内

正月三日

〔二日 午前八時すぎ〕

西条市無形文化財指定の、「田宮流居合術」の奉納演武がございませす。田宮流居合術保存会のベテラン剣士にまじり、次世代を担う少年剣士・少女剣士の姿もございませす。是非、ご覧ください。



〔三日 午前十時〕

荒川獅子舞の奉納がございませす。旧市内での秋祭りでは、だんじり・みこし・太鼓台の奉納が有名ですが、加茂地区山間部では「獅子舞」の奉納が行われています。地域の伝統文化を継承する荒川獅子舞保存会による奉納を、是非、ご覧ください。



紀元祭

平成二十八年二月十一日 午前十時から

神武創業の古を偲び、厳肅に祭典を執り行います。当日は、建国記念の日奉祝大会も開催されます。



祈年祭

平成二十八年二月十七日 午前十時から

五穀豊穡、商工業の発展を祈願致します。多数のご参拝をお待ち致しております。



開運春祭

平成二十八年四月三日(第一日曜日)

裏千家淡交会による月次釜、茶筌供養等を予定しております。ご参拝後には、福木、紅白餅の授与がございませす。



新年の準備はお済みですか

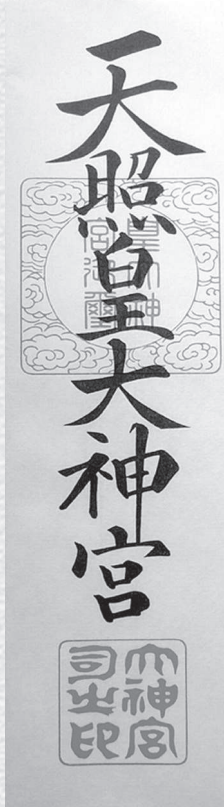


今年も残すところ僅かとなりました。

新年を清々しく迎え、一年の無事をお願いすべく、神宮大麻と神社大麻をうけましょう。

・神宮大麻と神社大麻は、氏子総代様の御協力により毎年、各戸に頒布戴いております。

・神宮大麻



・神社大麻



ご存知ですか 氏子区域の鎮守さま

兼務社紹介 その一

天満神社 (てんまんじんじや)

鎮座地 西条市藤之石五号二二七

御祭神 菅原道真公 可過槌命 雅日女命 素戔嗚命

国道一九四号線を市内から高知方面へ進むと、加茂川に架かる「筋神橋」があります。これを渡ってすぐ右側の河川敷に、うっそうとした社叢林が見えてきます。ここが天満神社です。



この天満神社は加茂地区中ノ池に鎮座されており、伊曾乃神社の氏子区域では最南端の兼務社となります。創立年代は不詳ですが、奉納されている狛犬や灯籠などを見るに相当の間、風雨の影響を受けており、古くから鎮座されていると思われます。祭礼は春と秋の年二回行われ、当日は境内に高張提灯や幟を掲げ、集落内及び出身の老若男女が集い、直会（なおりい）で楽しいひと時を過ごします。

御奉仕御礼

御旅所除草奉仕

御旅所管理委員会の皆様

神門前大楠注連縄奉製

神戸長寿会の皆様

例大祭前の境内清掃奉仕

神戸長寿会の皆様

神拝老人会の皆様

大町福寿会の皆様

下福古墳周辺清掃奉仕

西條史談会有志の皆様

境内清掃奉仕

愛媛県厚生年金受給者協会西条支部の皆様

御旅所鉄柵塗装奉仕

(有)山田塗装工業所様

御多忙の中、御尽力を賜り洵に有難うございました。厚く御礼申し上げます。



社頭点描

うちぬきの奉納

六月三十日、西条港の「弘法水」を汲み、石鎚山天狗岳まで徒歩で奉納する恒例の「うちぬき水への報恩感謝プロジェクト」が行われ、NPO法人うちぬき21プロジェクトの皆様が早朝、当社へ参拝し、奉納戴きました。水に感謝・人に感謝・神に感謝です。



夏越祭

七月三十日、夕刻より加茂川河川敷で夏越祭を執り行いました。気候もよく、多くの参拝者で賑わいました。



大東亜戦争(後)終戦七十年記念祭

終戦の日七十年目となる八月十五日、月次祭に併せて氏子出征者をはじめとする全ての御英霊の御霊和めの祭典を執り行いました。当日は、伊藤勇氏の御好意により御曾祖父様、御尊父様の軍隊遺品をお借りし、神前展示を行いました。



秋季氏子総代会

八月二十九日、伊曾乃会館にて決算報告や例大祭を中心とした議題審議を行いました。



事始式

十月三日、例大祭の準備を告げる事始式を鬼頭、奉納屋台・みこしの責任者が参列し、執り行いました。





(平成二十七年十二月)
(平成二十八年五月)

十二月	一日	朔日祭	午前十時
	十三日	すす払い神事	午前九時
	十五日	月次祭	午前十時
		古神札焼納祭	午前十一時
	二十三日	天長祭	午前十時
	三十一日	大祓式	午後三時
		除夜祭	午後五時
平成二十八年			
一月	一日	祭旦祭	午前六時
	三日	元始祭	午前八時
	七日	昭和田皇祭遙拝式	午後三時
	十五日	左義長(とうじ)神事	午前九時
		月次祭	午前十時
		初天神祭・筆供養祭	午後一時
二月	二十五日	朔日祭	午前十時
	一日	紀元祭	午前十時
	十五日	月次祭	午前十時
	十七日	祈年祭	午前十時
三月	一日	朔日祭	午前十時
	十五日	月次祭	午前十時
	二十一日	春季皇霊祭遙拝式	午前十時
四月	一日	朔日祭	午前九時
	三日	開運春祭【大祭】	午前九時
	十五日	月次祭並神符札入魂祭	午前九時
	二十九日	昭和祭並崇敬者大祭【大祭】	午前九時
五月	一日	朔日祭	午前九時
	五日	菖蒲祭	午前九時
	十五日	月次祭	午前九時

【平成28年 年賀表 (数え年)】

還 暦	61歳	昭和31年生まれ	さる
古 希	70歳	昭和22年生まれ	いのしし
喜 寿	77歳	昭和15年生まれ	たつ
傘 寿	80歳	昭和12年生まれ	うし
米 寿	88歳	昭和 4 年生まれ	へび
卒 寿	90歳	昭和 2 年生まれ	うさぎ
白 寿	99歳	大正 7 年生まれ	うま
上 寿	100歳	大正 6 年生まれ	へび

【平成28年の厄年 (数え年)】

男 性	厄	25歳	平成 4 年生まれ	さる
	前 厄	41歳	昭和51年生まれ	たつ
	本 厄	42歳	昭和50年生まれ	うさぎ
	後 厄	43歳	昭和49年生まれ	とら
女 性	厄	19歳	平成10年生まれ	とら
	前 厄	32歳	昭和60年生まれ	うし
	本 厄	33歳	昭和59年生まれ	ねずみ
	後 厄	34歳	昭和58年生まれ	いのしし
	厄	37歳	昭和55年生まれ	さる

厄除年賀祈禱
年間を通じて受け付けております。

編集後記

無都比会の村上俊行先生の連載は、今回で三回目になりました。お忙しい中での貴重な原稿をありがとうございました。

また、崇敬会副会長でハルキフォートの高橋勝行さまには、神社の行事にはいつも御参加いただき、貴重な写真もいただきありがとうございます。今回の社報にも、高橋さまのお写真をたくさん使わせていただいております。

伊曾乃神社御創祀一八八〇年記念事業奉賛会も開始し、氏子の皆様からご寄付をいただき、また境内整備として、境内の雑木伐採、境内清掃など、色々とご協力をいただいた事を心より厚く御礼申し上げます。

氏子の皆様方の支えがなくてはならないという事を、深く感じております。
(愛)

発行

伊曾乃神社社務所
〒793-0054 西条市中野甲一六四九
電話 ○八九七・五五・二二四二
FAX ○八九七・五六・四七六二
HP <http://www.isonoinja.or.jp/>